



Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会会報

第13号 2005年10月ネパールの視覚障害者を支える会 (NBSA)

NBSA HP : <http://at.sakura.ne.jp/~ilte/nbsa/>

主内容 : ネパールの働く仲間現/クイズ大会/新プロジェクトの紹介/ネパールよもやま話/事務局だより

新しい事業と新しい国際協力のあり方



チャリティー・ピクニック — 今年の野外イベントはちょっと違うよ —

日本からの援助を軽減しよう、とNBSAカトマンドゥ支部が考えたのがピクニック。過去2回は目の不自由な人に少しでも、野外で体力を養ってもらおうと山歩きを行いました。今回はみんなで身軽に楽しもうと飯盒炊爨（はんごうすいさん）を考え付きました。材料はすべて持ち込み、ボランティアの手作り料理を楽しみ、ヒンドゥーの聖地ダクシンカリを詣でました。カトマンドゥ盆地内にあるのに初めて行った人も多く、ネパールではたいへんな出費200ルピー（380円程）も案外簡単に集まりました。写真はトランプに興じる人々。トランプには点字が打っており、見える人は自分の捨てるカードを読み上げます。共に生きるを目指すNBSAらしい企画と誰もが感激。あまりに大判振る舞いをしたせいか、自立に向けた収益はささやかでしたが、誰もが満足、楽しい一日を過ごしました。

(写真撮影と本誌への掲載はモデルの許可を得ています)



ネパールの働く仲間

NBSA カトマンドゥ支部会長
オム・プラカス・バンジャデ
(OM PRAKASH BANJADE)

職業：アナウンサー。

年齢：27歳

* とても若く見えるオムさんですが、もうお父さんです。

勤め先はネパールのテレビ局と、

民間ラジオ放送局。障がい者の報道番組を担当しているので、将来は本格的なメディアの仕事をしたいとのこと。出身はお釈迦様の生誕地ルンビニ郡。高等教育まではポカラの名門校アマルシンハ学校で学びました。大学進学のため首都カトマンドゥに移り住み、そこでめでたく結婚。今年 NBSA のカトマンドゥ支部会長に就任し、意欲的に活動を続けています。今後の夢は？と聞くと「個人的にはありません。ネパールの視覚障がい者の福祉向上に最大の努力を続けることだけしか考えていません」と答えました。オムさんはすごいハンサムで、テノール調のソフトな声の持ち主。そして職業柄よくスーツを着ていて、Yシャツにはしわひとつない。お洒落さんと有名です。ただし、ひたすらまじめで少々固いのが長所でしょうか？それとも短所でしょうか？

(写真中央がオムさん。両隣はクイズ大会の優勝者)

今年もやりました第3回クイズ大会

毎年クイズ大会を行っていますが、これは NBSA 独特の社会啓発の一環です。教育の機会さえ与えられれば、障がいを持たされた子供も何ら変わりなく勉強でき、大人になれば立派な社会人として世に出て行けます。遊びのようなイベントの中にはこんなメッセージが含まれているのです。今年も様々なメディアで、このクイズ大会が取り上げられました。頑張っている視力障がい児の姿が、多くの人々の心に残った事でしょう。ご声援有難うございました。来年もきっとやります

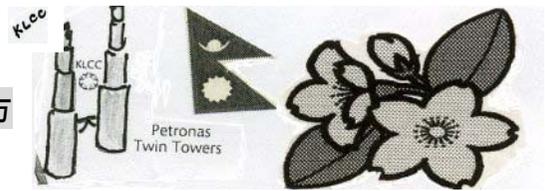
(NBSA カトマンドゥ支部会長・Om Prakash Banjade)



出場者の年齢は15歳から18歳。各学校から2名が選ばれ決勝を競います。ネパールではこの手の子供のクイズ番組が多く放送されますが、ほとんどが英語です。私たちもこれまでは、視力障がい児の実力を見せようと、対等に英語で行ってきましたが、今年の NBSA クイズ大会はネパール語で行い、学校間のレベル差を縮め、どの盲学級の生徒も参加できるようにしました。そのせいですね、例年より活発な雰囲気を感じられ、応援の生徒も楽しそうでした。結局1位(キルティプル)以外はランクを付けず、参加することに意義あり、ということで各学校と参加者各自に同等の記念品(花瓶)とお土産(キーホルダー)を配りました。



新しい事業と新しい国際技術協力のあり方



コンピュータ点字製作技術指導講習会

(2005年10月23日～26日 カトマンドゥ市内ラジソンホテルにて開催予定)

マレーシアの盲人協議会は、日本から受けた支援で立派に自主運営をしている団体です。今では日本点字図書館から伝授された技術を周辺の途上国に媒介しています。今年はネパールに白羽の矢が当たり、NBSA 支部がカウンターパートに選ばれました。NBSA カトマンドゥは講習後に点字のニュースレターを毎月発行していく予定です。日本の点字毎日に比べると約1世紀の遅れですが、カセットテープライブラリー共々、ネパールの視覚障がい者にとり、新しい盲人文化を築く礎となりますよう精一杯がんばります。

(社福) 日本点字図書館理事長に国際協力の経緯と激励のお言葉をいただきました

日本点字図書館がこの国際協力事業を始めたのは、1994年からである。私が日点の館長に就任したのが1991年。その前からぜひ国際協力事業を展開したいと考えていたが、1993年のESCAP アジア太平洋障害者の十年を機に、助成団体の協力を得て始めた。1993年はバングラデシュ、インドネシア、マレーシア、タイ4か国の調査。それに基づきマレーシア盲人協議会をカウンターパートに、この事業を展開することになった。

私が視覚障害者の分野で国際協力をしたと思った原点は、1985年、東京ヘレン・ケラー協会に頼まれネパールに調査に行ったことに始まる。同協会が国際協力事業を展開するに際し どうしてネパールを選んだかは別にして、私は見学した統合教育校で、視覚障害児・生徒にほとんど点字教科書がないことに愕然とした。これではせっかく学校に行っているのに、学習効果はあがらない。そこでたまたま点字出版所を持っている東京ヘレン・ケラー協会なら、点字出版所を設立して、点字教科書が出版できるはずなので、その国際協力事業を実施するように進言した。それはネパール盲人福祉協会 (NAWB) によってみごとに実現し、小学1年生用の教科書から順次点字化されていった。それを横目で見ながら、東南アジアに行ってみると、ネパールと同じ環境がそこにはまだあった。当時、日点ではすでにコンピュータ点字製作技術が定着していたので、日点としては旧来型の点字製版はやめて、ITを活用することにした。

当初は マレーシア盲人協議会をカウンターパートとして、マレーシアを中心に、同国内及び周辺の国々から盲学校や図書館の職員を招き、技術指導した。また 技術指導の成果がすぐにあがるように、講習会で使用してもらったコンピュータ、点訳ソフト、点字プリンタなどの機器を講習生に贈呈した。この方式は2002年まで続けたが国際ボランティア貯金の助成が打ち切られたために、2003年からはカウンターパートにマレーシア周辺の国に出かけてもらい、指導する方針に切り替えた。2003年はモルディブ、2004年はバングラデシュのチタゴン、そして今年がカトマンズである。

ネパールは前述したように 点字教科書については十分な手当ができています。しかし、まだ仲間に配布するような雑誌や簡単な点字印刷物を製作することは容易ではない。今回の援助が、きめ細かい点字資料の製作につながってくれば、日点にとって望むところである。NBSA に大いに期待している。

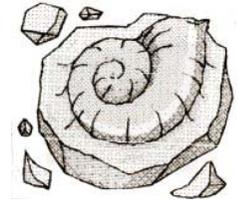
(社福) 日本点字図書館理事長 田中 徹二

ネパールよもやま話 今回のよもやまは最大級！

巻の話題やネパールの珍しい動植物やなどを紹介してきたコーナーですが、今回は思いっきりスケールのでかい話。太古の昔 Gondwana 大陸が大洋を漂流していた。それがどーんとぶつかったとき何が起こったか？！

海から生まれたヒマラヤ

吉田 勝 (トリブバン大学トリチャンドラキャンパス地質学教室)



世界の屋根ヒマラヤは、よく知られているように古インド亜大陸と古ユーラシア大陸の衝突によって生まれました。両古大陸の間にあったテチス海は消滅し、かつての海底（大陸棚や大陸斜面）に堆積した堆積物は持ち上げられて現在のヒマラヤの高いピークや主稜線を作り、さらに北方にも広く分布しています。有名なエベレストのイエローバンドとその上のすべての岩石は石灰岩や石灰質泥岩などで、海ゆりなどの化石を含み、約5億年前にインド亜大陸北縁の海底堆積物だったことが知られています。これらの堆積物はテチス堆積物と呼ばれ、大体ヒマラヤ主稜線周辺（ハイヒマラヤ帯と呼ばれます）とそこから北のチベットヒマラヤ帯にかけて広く分布しています。カリガンダキ河上流のジョムソンから北方はすでに、ヒマラヤの主稜線を超えたチベットヒマラヤ帯に入りますが、このあたりには膨大な石灰岩の地層があります。この石灰岩には2枚貝やベレムナイトなどの化石が沢山含まれており、約2億年前の海底堆積物でした。更にカグベニから東に登って行くと、ムクチナートの少し下のジュラ紀（約1億5千万年前）の泥岩層は大小さまざまな（直径1メートルを越えるものも見ついています）アンモナイト化石を沢山産出し、勿論海底堆積物です。ここは世界でも有名なアンモナイト化石産地です。

ヒマラヤ主稜線付近から南斜面にかけて、ほぼ標高3000mまでの間はハイヒマラヤ帯で、ここには5億年よりも古いハイヒマラヤ片麻岩類が、十数キロから数十キロの幅で分布しています。ハイヒマラヤ片麻岩類には泥岩や

石灰岩など堆積岩起源のものが多くあり、やはり海底堆積物でした。ハイヒマラヤ片麻岩類の南には大きな境界断層があり、その南はレッサーヒマラヤ帯となります。この地帯には、弱く変成されたいろいろな種類の変堆積岩が数十キロから所によっては100kmを超える巾で分布しています。レッサーヒマラヤ変堆積岩類は岩相の特徴から明らかに海底堆積物ですが、化石が殆どなく、堆積環境や時代がよくわかっていません。間接的な年代資料などから、約19億年前から8億年前の間に堆積したと考えられます。レッサーヒマラヤ帯の南は、主境界断層を挟んでシワリーク層群からガンジス平原堆積物へと移ります。これらの堆積物はヒマラヤから流れる河川の堆積物です。

ここで述べたようなヒマラヤ主要部分の特徴的な岩石分布は、大ヒマラヤ山脈のどこを横切っても同じように見られます。これはヒマラヤのどの部分も古インド亜大陸と古ユーラシア大陸の衝突という大きな構造特徴を持っているためです。

このように、ヒマラヤの主要部分を作っている岩石の大部分は海底に堆積した岩石です。約19億年前から1.5億年前までの間、延々と古インド亜大陸の北縁の大陸斜面や大陸棚に堆積したものと考えられます。それらの堆積物が次々と新しい堆積物の下に埋められて圧密され、気の遠くなるような長い時間をかけて堅い岩石に変わり、大陸衝突の力によって褶曲し、インド大陸地殻の上に押し上げられて上昇し、ついに大ヒマラヤ山脈を作ることになったというわけです。

それでは古インド亜大陸はどこにあったのか、堆積岩類はなぜ変成岩になったのか、ヒマラヤには海成堆積岩以外にどんな岩石があるのか、などなど、疑問がいろいろ起こります。これらの問題は次回に解決しましょう。

● 吉田勝氏の最新案内「カリガンダキ河沿いの地質と自然災害」(英文) 850 ルピー

Guide book for Himalayan Trekkers Series No.1

編著者: B. N. Upreti & Masaru Yoshida

神秘の渓谷カリガンダキを丹念に歩いて調査した、ヒマラヤン・トレッカーズ待望のガイドブック。特に地質学ファンにはお奨めの一冊。カトマンドウのタメルの書店やマップハウスで購入できます

ブラマンの葬式 すべてに別れを告げる

ネパールには霊はあるようだけど、幽霊は出ないし、ゾンビーもない。日本だと、未来永劫鎮魂し、決して怨念を残さずバケて出てこないように、と死者と別れるのが葬式。ネパールだと生命の終わりはすべての決別のとき。大変いさぎよく感じるが、はたで見ていると異常に宗教色が濃く、家族に大きな負担がかかるようなものだそう。結婚式は、それは、それは華やかですが、葬式は親族だけの神聖な儀式につき、私は聞いた話だけをお伝えしましょう。(報告: 渥美よりこ)

「父が亡くなった。今から田舎の葬式に行く」とスタッフの一人から電話がかかってきた。香典を届けに行くと、ポロTシャツとゾウリ姿でいる。葬儀に臨むには、これまで身に着けていたものをすべて捨て、白い腰巻など新品を身に付けねばならない。ネパールには霊安室などない。葬儀はすぐ行われ、夜間に茶毘にふしたようだ。下着類まですっかりはがし、死体を白い布でくるみ、川まで息子たちが運ぶ。女性は葬儀に参加できず、未亡人は死ぬまで白装束をまとう。そのため夫との別れの日が来るまで、ネパールの婦人は赤いサリーを着る。

また、宗教的葬儀を執り行うのはネパールのトップ・カーストの職業ブラマンに限られ、家族とて命の消えた死者に直接接触することは許されない。この友人自身もブラマン(インドのブラーフマン)で、司祭者階級に属するが、一般的な職についているので、お経をあげたりする専門のブラマンを11人も雇用した。ブラマンは別に時間給や日当をもらえるわけではないが、穀類や儀式に用いる金銭(あの

世への餞別)をもらって帰り、日々の糧を得ている。また、葬儀に直接関与する親類にも白い新品の衣類を支給し、通常1年間は白い衣類をまとわなければならない。白い帽子、シャツ、ズボン、靴などを着用している人を見て、私はネパールに来た当初は病院関係者が多いな、と思ったほど徹底している。

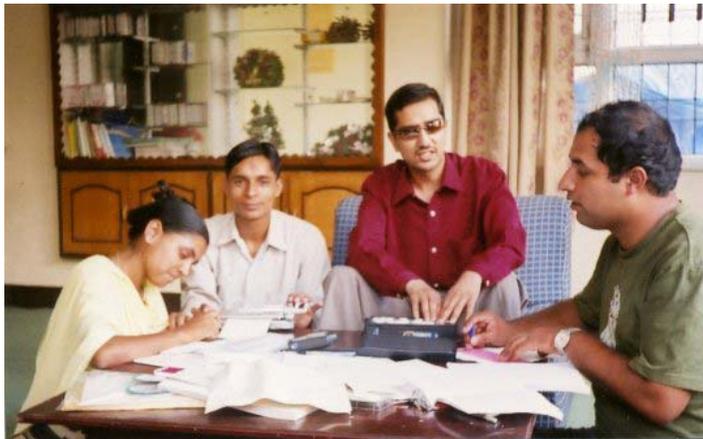
初めの11日間は親族にとって一番大変な時のようで、ムシもひかない地べたに寝る。また、生あるものとの接触を禁じられているので、夜など蚊が飛んでくのを防ぐため、見見張りを雇わねばならない。また、冷蔵庫に入っている水すら、様々な人が触るので飲んではいけない。食事は無論親族が作った完璧な精進料理で、1年間これを守らねばならない。茶をよそですすめられても決して飲まず、外で仕事をする人は常に弁当と水筒を持参する等様々な制約がある。頭は頭のてっぺんの毛だけを残してしっかり剃りあげる。ヒゲと違って毎日剃るわけにもいかないので、10日もすればボウズ頭になってしまうのだが。沐浴は毎日川で10回、寒い季節には身を切るような冷たさで、石鹸を使ってはならず、暑い季節にはどうしても汗がぬぐいきれない。

クライマックスは最終日で、死者が生前に着ていたものを職業ブラマンが着て、死者の真似をし、動物の背に揺られて去っていく。このようなきつい時を過ごすのがブラマンの葬式だという。また、日本の49日に当たるのは、ネパールで45日目。天国で故人の待遇がよくなるよう、同じような儀式を再度行う。ここまでやってもらうのだから昇天した人は、申し訳なくバケて出てくる気にならないだろう。

カトマンドゥ事務局だよりとお知らせ

●定例活動のカセットテープ・マガジンや小説の音訳（トーキング・ブック）に加え、朗読、音訳ボランティアのためにリーディング・トレーニング（音訳者の集い）を始めました。多くのボランティアが主婦なので、たまには外出もよい、とまずまず参加してくれます。集まることに意義あり、といった感じで、ほとんどが雑談で終わるのですが、少しは勉強し、誰とはなしに「お茶にしようか」と言い出すと、みんなうれしそう。

●点字講習会の開催：10月下旬にマレーシアの盲人団体から点字プリンターとコンピューターの寄贈を受けます。その準備に急遽、英語、ネパール語点字の講習会を始めました。本格的に技術をもつボランティアを養成するので大変ですが、受講者はなぜか仕事を持っている人に限って熱心。少ない余暇に何か社会奉仕をしたい、と集ってくる人々ばかりです。現在4名が週4日の集中講習を受けていてこちらの集まりはかなり真剣。（写真：点字トレーニング）



2005年秋のスタディーツアー。締め切らせていただきました。

今回は2005年11月1日出発です。ネパールの視覚障害青年が参加するNBSA、交友（ゆうこう）トレッキングも行います。今回参加できなかった方は、次回ぜひネパールにお越しください。思い出深い旅が皆さんをお待ちしています。

カセットテープの価値：

ネパールではカセットテープ1本が55ルピー。日本とあまり変わらないようです。ところがネパール人の所得に比べると、約700円くらいになるでしょう。大変高価です。大勢の方の中古カセットを頂き有効に使っています。現在90分テープが不足していますので、ご寄贈頂けると幸いです。40本以上集まりましたら、寄贈を受け付けています。

ウォークマン人気者！引き続き寄贈をお願いします。

皆様のご協力を得まして、ウォークマン数台が集まりました。これは学生に貸し出し、授業の補助教材、小説の録音にしています。それでもまだ台数が足りません。よろしくをお願いします。

Nepal Blind Support Association (NBSA) Yoriko Atsumi P. O. Box: 8974 PCN-111 Kathmandu, Nepal Tel:977-1-4356-357 E-mail: yorikonepal@hotmail.com

《日本の事務局》 〒890-0064 鹿児島市鴨池新町 27-1-1108 上田佳代子 Tel&Fax: 099-258-6685 E-mail: ilte@at.sakura.ne.jp NBSA HP: http://at.sakura.ne.jp/~ilte/nbsa/
--

維持会費：個人会員年間 6,000 円 / 法人会員年間 15,000 円

振込先：郵便振替 01790-7-74222（ネパールの視覚障害者を支える会）
